

# Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド  
東京都東京都千代田区神田神保町3-29-1

## 為替週間展望 = ドル円は109～110円台でのみみ合いか

[8月9日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		8月2日～8月6日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	109.69	109.89(6)	108.72(4)	109.83	+0.11
ユーロ・ドル	1.1869	1.1900(4)	1.1819(6)	1.1826	-0.0044

=====

国内株・金利/米国株・金利		終値		前週末比	
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	27,820.04	+536.45	日本10年債利回り	0.020	-0.002
ダウ平均株価	35,064.25	+128.78	米10年債利回り	1.224	+0.001

=====

<来週の主要経済統計等>

- 9日 中国7月消費者物価指数、中国7月生産者物価指数  
スイス7月雇用統計  
独6月貿易収支、独6月経常収支
- 10日 日本6月経常収支  
独8月ZEW景況感指数  
米第2四半期非農業部門労働生産性指数
- 11日 独7月消費者物価指数確報値  
米7月消費者物価指数  
米7月財政収支
- 12日 英第2四半期国内総生産(GDP)速報値  
英6月鉱工業生産指数、英6月製造業生産指数、英6月貿易収支  
ユーロ圏6月鉱工業生産指数  
米7月生産者物価指数、米新規失業保険申請件数
- 13日 スイス7月生産者・輸入価格  
ユーロ圏6月貿易収支  
米7月輸入価格指数  
米8月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値

【前回のレビュー】注目度の高い経済指標の発表が相次ぎ、結果が良好なものとなるようなら、米長期金利の上昇からドル円にも支援材料となる。ドル円は109～110円台を中心に落ち着いた動きが見込まれ、米経済指標の好調さが見られるようだと一段高となる可能性が出てくるとした。

【米経済指標の動きでドル円は一進一退の動き】

米経済指標はまちまちの動きを見せており、ドルは振り回される状況となっている。2日発表の7月の米ISM製造業景況指数は59.5となり、事前予想の60.9や前回の60.6を下回った。水準そのものは高水準となっているものの、景気回復ペースの鈍化が警戒された。

2日には米10年債利回りは1.177%前後まで低下した。景気回復ペースの鈍化懸念に加えて、新型コロナウイルスのデルタ株の感染拡大が警戒されている。ワクチン接種の普及で感染者数の増加にいったんは歯止めがかかったかに見えたものの、再び感染者数が増加している。

3日のNY市場では、米10年債利回りが一時1.15%前後まで低下した。新型コロナウイルスの感染者数が増加傾向にあることなどが嫌気されて、リスク回避の動きか

ら米国債が買われて利回りが低下した。こうした中、ドル売りの動きとなって、ドル円は一時108.88近辺まで下落して、109円を割り込んだ。

4日のNY市場では米経済指標の動きでドル円やユーロドルは荒れた動きを見せた。7月の米ADP雇用統計が前月比33万人増となり、市場予想の68.3万人増を大きく下回ったことが嫌気されてNYダウは323ドル安となった。ドルが売られて、ドル円も108.70台まで下落した。その後に発表された7月の米ISM非製造業景況指数が64.1となり、市場予想の60.5を大きく上回り、過去最高の水準に達したことで、ドル買いに傾いてドル円は109.60台まで大きく上昇した。

5日は米新規失業保険申請件数が2週連続で減少したことが好感されて、米国株が上昇、米10年債利回りの1.22%台まで上昇したことで、ドル円も109.80近辺まで上昇した。ドル円は米経済指標の動向に左右されやすい展開となっている。米国でも新型コロナウイルスのデルタ株の感染拡大が広がっており、先行きへの警戒感も高まっている。

4日に米連邦準備制度理事会（FRB）のクラリダ副議長は講演で、景気は拡大期に入ったとみられ、「2022年末には利上げの条件が整う」との見解を示した。また、雇用に関しては依然として回復期にあると述べた。量的緩和の縮小（テーパリング）の開始時期に関しては、今後数回の会合で経済の状況を確認する意向を示した。

米10年債利回りはクラリダ副議長のタカ派的な講演を受けて、4日に一時1.21%台まで上昇したものの、その後は1.18%台まで低下した。2日以降は終値ではおおむね1.17～1.18%台での推移となり、5日に1.22%台まで上昇した。ドル円は上下に振幅しているものの、109円割れでは底堅い動きを見せている。米経済指標や株価の動向などに左右されながら、109～110円台を中心とするもみ合いが見込まれる。ドル円の目先の予想レンジは、108.75～111.00円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、10日に日本6月経常収支、米第2四半期非農業部門労働生産性指数、11日に米7月消費者物価指数、米7月財政収支、12日に米7月生産者物価指数、米新規失業保険申請件数、13日に米7月輸入価格指数、米8月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値などがある。

#### 【ユーロドルはもみ合いで推移か】

7月30日にユーロ圏第2四半期国内総生産（GDP）速報値が予想から上振れしたことなどから、ユーロドルは一時1.1900台に乗せた。その後は軟調な流れとなつて、4日には7月の米ISM非製造業景況指数の上振れもあって、1.18台前半まで下落した。その後も米長期金利が上昇しており、ユーロドルは上値の重い動きとなっている。

2日発表のドイツやユーロ圏の7月の購買担当者景気指数（PMI）確報値は事前予想を上回った。ただ、4日発表のドイツやユーロ圏の非製造業PMI確報値は事前予想を下回った。ユーロ圏の経済指標はまちまちな動きとなる中、ユーロドルは大きく上昇しにくくなっている。そうした中、ユーロドルは最近のレンジ内でもみ合いが継続することとなりそうだ。ユーロドルの目先の予想レンジは1.1750～1.1950ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、9日に中国7月消費者物価指数、中国7月生産者物価指数、スイス7月雇用統計、独6月貿易収支、独6月経常収支、10日に独8月ZEW景況感指数、11日に独7月消費者物価指数確報値、12日に英第2四半期国内総生産（GDP）速報値、英6月鉱工業生産指数、英6月製造業生産指数、英6月貿易収支、ユーロ圏6月鉱工業生産指数、13日にスイス7月生産者・輸入価格、ユーロ圏6月貿易収支などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

---

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。